

アンケートに寄せられた声から

悲鳴と嘆きが渦巻く職場

昨年11月、21春闘アンケートを取り組み、様々な意見が寄せられました。アンケートには切実な生活実態と職場への不満や要求も書かれています。どこの職場でも業務量に見合った人員が配置されてないことによる労働過重の実態が出されています。

本社や支社は

この声を聞くべきだ

○「その日の要員状況で場当たり的な仕事をさせられる。当日にならないと仕事に分からない」

○「日勤、夜勤の通し勤務が常態化しているので非番日は寝ている。そうでないと体がもたない。人員を配置してほしい」

○「人が辞めた後の補充がされてないので郵便内務でも時間帯によっては休みの時間がとれない」

○「人を見て態度を変える管理職がいる。これって差別ですよね」

○「新入社員に社員の当たりが強くない。上司の目も届きませんし、周りも注意しないどころか同調しているようで心配」

○時給制契約社員ですが、スキ

ルの最上位になる努力をしています。しかし、勤務形態でなれませんが、なれるように改善してほしい」

○「女性が多いのに女性のトイレが少ない。そのために休憩時間は並ぶ状態。何とかしてほしい」



職場からのメール

8人で働く特定局です。郵窓、貯窓、かんぽ窓を少ない人数でやっているの業務のやりくりが大変。かんぽの不正ではお客さんの苦情で大変です。計画年休や風邪などの病気で休む人がでると、窓口の全部に人を配置できないこともあります。また、上からの指示に現場は振り回されてしまい指示文書通りに全てできていない現状です。常時人員不足の局には人を配置してほしい。

今年も粘り強く

たたかっている

このように過酷な労働実態、職場環境におかれています。欠員を補充し、業務量に見合った人員の配置、パワハラや差別をなくしていくために今年も粘り強くたたかっています。

虚偽答弁が

繰り返された一年間

この1年間、桜問題で安倍前首相は118回の虚偽答弁をしていました。国の最高機関である国会で虚偽(でたらめ)答弁を繰り返していたことは絶対に許されません。こういう人がトップにいたのですから、この国の民主主義の度合いがいかに低いかが分かります。残念ながらこういう政治家を国民は選んでいます。日頃の政治への無関心、変革を嫌う現状の肯定を選んできた結果が今の状況をつくっているのを忘れてはなりません。